

13時出港，20日17時マジロ帰港。あとあとまで心に残る3日間の船旅であった。

ギルバート班17名は，飛行機でタラワへ。

57年11月に本会が建立した南瀛の碑の付属としてマリア観音像が竣工し，3月18日本会会員で除幕式を行った。(41-2)



ウオッセ (59. 3. 18)



マリア観音像除幕式 (タラワ 59. 3. 18)



マキン (59. 3. 20)

第9回現地慰霊

60年2月の総会で，61年8月に現地慰霊団派遣を決定したところ，政府も同時期に実施のこととなり，統一行動の便宜を供与された。政府への申込み29名，本会22名，総計51名。8月25日出発9月1日帰国した。(46-2)

クェゼリンでお世話になった方々へお礼

クェゼリン島に永く勤務され，本会の慰霊碑建立の際は献身的な協力を頂き，その後は碑周辺の清掃，供花等を奉仕下さった徳原様，中田様，大里様に，62年8月4日御礼の手紙を添えて世界時計をお贈りした。(48-12)

クェゼリン，ルオットの写真

かねてクェゼリン島の，リチャード・チャップマン司令官に，靖國神社に奉納のためクェゼリン墓地の写真をおねがいでいたところ，62年12月8日，ネガと共に送られた。更に，ルオット島の写真も添えられていた。ルオット島の墓地は56年8月墓参の時より一段と広く改修され，美しい花壇が設けられているのに同島遺族の感激は一入であった。(49-20)

遺品奉納

63年2月14日，本会の斡旋により，慰霊祭に先だって，ルオット島守備の山田司令官，クェゼリン島守備の秋山司令官，タラワ，マキン守備の柴崎司令官の遺品がそれぞれの遺族から靖國神社に奉納され，松平宮司から「御祭神の貴重な御遺品ですので，長く大切に御預かりします」と御挨拶があった。

その後，長い間探していたブラウン島守備の西田旅団長の遺族とようやく連絡がつき，6月15日長女和田和子さんから遺品数点が奉納された。(49-1)



海軍中将 山田道行命



海軍中将 柴崎惠次命



海軍中将 秋山門造命

慰霊副碑台座・写真等奉納

49年2月に、クエゼリンの忠魂慰霊碑の副碑を奉納してあったが、この度その台座を作製し、63年5月2日に奉納した。

尚、同時に、62年12月にクエゼリン島の米軍司令部よりおくられたクエゼリン、ルオットの墓苑写真と、タラワ島の慰霊碑の写真等を奉納した。(49-20)

靖國神社に置時計奉納

平成元年は、靖國神社御創立120年に当り、御本殿大修築完成の年でもあるので、奉祝並びに御祭神奉慰のため、セイコー製重錘式置時計を奉納することとした。

6月29日、御創立120年祭の当日、遊就館一階北側休憩所に安置され、悠久の時を刻んでいる。(52-15)

第10回現地慰霊

平成元年8月23日、ルオット班一行15名は靖國神社と千鳥ヶ淵墓苑に参拝し、成田へ。24日成田発、ハワイを經由して、25日にマジュロに到着した。カブア大統領を表敬訪問。26日早朝マジュロ発、クエゼリンへ。ハリス司令官の

お出迎えをうけ朝食をともにし、クエゼリン墓地にお詣りした後、双発機でルオットに向う。美しく整備された墓苑に一同感激の参拝をした。帰路ハワイで徳原夫人、中田夫妻、大里夫妻とその長男夫妻の皆さんをお招きして会食懇談。8月29日帰国した。(52-2)

靖國神社奉賛会創立10周年

靖國神社は崇敬者でお護りしよう、という心意気で発足した奉賛会は、平成2年に10周年を迎え、6月14日に奉賛金奉納式並びに奉納奉告祭がとり行われた。また創立以来高額の奉賛をした法人192社、個人168名、戦友団体22および遺族団体2に対して感謝状と松平宮司揮毫の色紙が贈られ、本会もこの光栄に浴した。(54-2)

50年祭斎行

平成6年3月27日、玉碎50年の節目の年に際し、50年祭が厳粛且つ盛大に斎行された。参列した会員、会友等303名は、大野宮司の御心情そのままの御挨拶に感動し、一その慰霊奉賛をお誓いした。国難に殉じた英霊に対する為政者の姿勢は一向に改善のきざしも見えず、嘆かわしい限りながら、我々はひた

すら神霊奉慰の誠をつくす覚悟を深くした。九段会館での直会には、錦正流一門の方々による大正琴、つづいて迫力十分な東北民謡を得手とする安藤民謡会の皆様の御協賛をいただき頗る盛会であった。(61-1)

第11回 現地慰霊

6年8月1日、50年祭の現地慰霊との思いからか、81歳から70歳迄の25人を含む70人が九段会館に集まった。靖國神社に昇殿参拝し、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に拝礼して、九段会館で結団式を行う。2日成田発、グアム島の平和寺に詣り、3日夕刻、マジュロ着。4日早朝東太平洋戦没者の碑に花環を捧げ、東太平洋全域の合同追悼式の後、クエゼリン、ルオット班49人はクエゼリンを經由して、ル

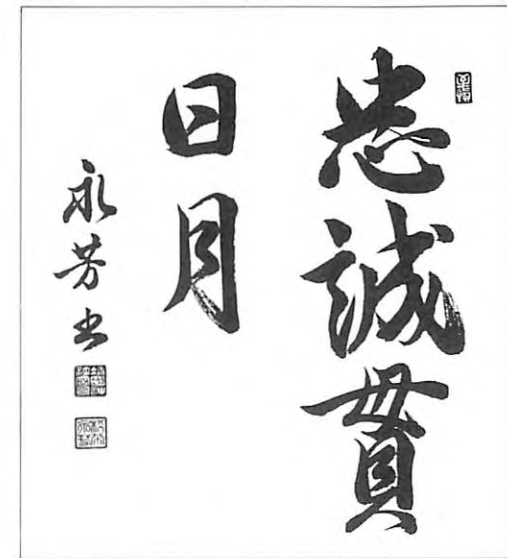
オットの墓苑に花環、お供物を供えお祈りした。その夜はエバイとクエゼリンに分宿し、翌5日はクエゼリンの慰霊碑に本会関係全英霊の御冥福を心からお祈りした。

ブラウン班15人は、4日ブラウン島で、国旗を掲げ祭壇をしつらえ、日本から持参した慰霊牌に拝礼。マロエラップ班6人は5日マロエラップ島でブラウン班と同様丁重にお詣りをした。

帰路、ハワイの太平洋国立記念墓地に花環を捧げ、鎮魂の曲を献じて拝礼し、8月8日一行は大任を果して帰国した。

この度、暑いさ中に70人もの大ぜいが無事故で意義深い慰霊の旅を終えることのできたのは英霊の御加護と思われる。クエゼリンのアキ・ホールさんとルオットのクーロング御

夫妻に心温まるおもてなしを頂いたこと、小島 温先生にボランティアとして御同行頂いたこともありがたいことでした。



靖國神社 松平宮司の揮毫



靖國神社よりの感謝状



靖國神社よりの感謝状



靖國神社奉賛会よりの感謝状



陸軍中将 西田 祥實 命



海軍少佐 音羽 正彦 命



海軍中将 山田 道行 命



海軍中将 秋山 門造 命



海軍中将 柴崎 恵次 命

4 年 表

(昭和元年12月～平成6年8月)

()内の数字は「環礁」の号と頁を、「戦記」は「環礁」22号～42号の「戦記シリーズ」を示す。

昭和					
元.12.25	大正天皇崩御，宝算47歳。皇太子裕仁親王踐祚「昭和」と改元	7.12.16	日本橋白木屋デパート火災	東の策略で張学良が蒋介石を捕え，中共軍と蒋介石軍が協同して日本と戦うことを約束（日支事変の源，西安事件）	
3. 5. 3	山東省済南で中国国民革命軍が，邦人経営の商店で掠奪行為，邦人の死者14人，被害者約400人（済南事件）	8. 2.24	国際連盟はリットン報告書に基づいて，日本軍の満州撤退勧告案を42対1で採択，松岡代表退場	12. 7. 7	蘆溝橋で演習中のわが軍と，近くにいた蒋介石軍の双方が何者かに射撃されやがて日中の全面戦争に拡大する
3.11.10	天皇京都御所で即位の大礼	8. 3. 3	三陸地方に大地震が発生，死者1,535人，負傷者1万2,053人，流失家屋3,500戸，全壊家屋1万7,907戸	12.12.13	南京占領
4. 8.19	ドイツ飛行船ツェッペリン伯号霞ヶ浦に着陸	8. 3.27	日本，国際連盟を脱退	13. 7. 9	日ソ間で張鼓峰事件発生
5.11.26	伊豆地方大地震死者254人，全壊2,290戸	8.12.23	第一皇子明仁親王御誕生	13. 7.29	北京郊外通州で，冀東政府保安隊が日本軍と日本居留民を襲撃，223人（内朝鮮人106人）を殺害，財産を掠奪（通州事件）
6. 9.18	柳条湖（溝）満鉄線路爆破事件発生 関東軍行動開始（満州事変）	9. 3.21	函館大火，家屋焼失約2万2,600戸，死者約650人	14. 5.11	ノモンハンで日本軍と外蒙軍が衝突 ソ連が外蒙援助（ノモンハン事件）
6. 9.24	政府，満州事変不拡大方針声明	9. 9.21	室戸台風，死者，行方不明3,036人，家屋流失約4万戸	14. 8.23	独ソ不可侵条約締結
7. 1.28	第一次上海事変勃発	11. 2.26	陸軍皇道派青年将校が1,400人余の部隊を率い，首相官邸など襲い，斎藤内大臣，高橋蔵相らを殺害し，永田町一帯を占拠，2.29鎮定（2.26事件）	14. 9. 1	独軍，ポーランド進攻
7. 3. 1	満州国建国宣言	11.12.12	蒋介石が，中共軍を攻略中の張学良を督戦のため西安に赴いたところ，毛沢	14. 9. 3	英仏，対独宣戦布告（第2次世界大戦に発展）
7. 4.20	中国の要請により国際連盟のリットン調査団大連着。6月2日まで現地調査			14. 9.17	ソ連軍，ポーランド東部占領
7. 5.15	政官財の腐敗に憤った海軍青年将校らが主体となって首相官邸などを襲い犬養首相を殺害（5.15事件）				

- | | | | | | |
|---------------------|--|-----------|---|----------|--|
| 15. 9.22 | 日，仏印間で現地交渉（北部仏印進駐）妥結 | 16.12.10 | ギルバート方面攻略部隊はマキン，タラワを占領 | 18. 9. 4 | 上野動物園で猛獣を薬殺 |
| 15. 9.23 | 日本軍北部仏印へ進駐 | 17. 2. 1 | 米機動部隊マーシャル諸島の各島に来襲，クェゼリンで第6根拠地隊八代司令官以下戦死（20－8） | 18. 9. 8 | 伊，連合軍に無条件降伏 |
| 15. 9.27 | 日独伊三国同盟調印（ベルリン）
これにより日米関係は一段と悪化し，
A B C D（米英支蘭）包囲網はわが国への圧迫を強める | 17. 4.18 | 米機動部隊日本本土初空襲（東京，横浜，名古屋，阪神）以後20年まで | 18. 9.10 | 鳥取大地震死者1,083人 |
| 15.11.10 | 紀元2,600年記念式典挙行，宮城外苑 | 17. 5.7～8 | 珊瑚海海戦，空母祥鳳喪失 | 18. 9.18 | ナウル，ギルバートに大空襲(12－5) |
| 16. 1.23 | 米国と協議のため，野村吉三郎特命駐米大使横浜出発 | 17. 6. 5 | ミッドウェイ海戦，大敗して主力空母赤城，加賀，飛竜，蒼竜の4隻と全飛行機および重巡三隈喪失 | 18. 9.19 | 米機動部隊，ギルバート諸島に来襲 |
| 16. 4.13 | 日ソ中立条約調印（モスクワ） | 17. 8. 7 | 米軍，反攻開始。ツラギ，ガダルカナルに上陸 | 18.11.13 | 米機動部隊，タラワ，マキンを猛爆以後21日までつづく |
| 16. 7.21 | 仏国，日本軍の南部仏印進駐を受諾 | 17. 8.17 | マキンに米海兵隊が潜水艦で来襲，守備隊46人戦死（9－10） | 18.11.14 | ウオッゼに初空襲（3－4） |
| 16. 7.25 | 米国，在米日本資産凍結。英，加，蘭も追従 | 17.10.26 | ガダルカナル攻防を巡り南太平洋海戦 | 18.11.21 | 米軍，タラワ，マキンに上陸 |
| 16. 7.28 | 日本軍南部仏印に進駐開始 | 17.12. 2 | 米，原子核分裂（原爆実験）成功 | 18.11.22 | 米軍，アベママに上陸 |
| 16. 8. 1 | 米国，第2次対日石油輸出禁止 | 18. 1.13 | ジャズレコード禁止 | 18.11.25 | タラワ島及マキン島守備の，第3特別根拠地隊柴崎司令官以下約5,500人玉砕（9－10，14－2，戦記－25） |
| 16.11.26 | 米國務長官より，いわゆるハル・ノート（日本案に不同意通告等，事実上の最後通牒）を野村大使に手交 | 18. 2. 7 | ガダルカナルより撤退 | 18.12. 1 | 第1回学徒出陣 |
| 16.12. 1 | 御前会議で対米，英，蘭開戦を決定 | 18. 4.18 | 山本連合艦隊司令長官機上で戦死 | 18.12. 5 | 米機動部隊，クェゼリン，ルオット，ウオッゼに来襲（マーシャル諸島沖航空戦） |
| 大東亜（太平洋）戦争勃発 | | 18. 5.20 | ヤルート沖で特設巡洋艦盤谷丸は米潜の雷撃をうけ沈没，南海第一守備隊約500人及び乗組員多数戦死（60－8） | 18.12. 9 | 米機動部隊，ナウルに来襲（約250機） |
| 16.12. 8 | 米，英，加，豪に宣戦布告，ハワイ空襲，マレイ半島上陸，大東亜戦争勃発
海軍飛行艇ナウル，オーシャン攻撃 | 18. 5.29 | アッツ島守備隊山崎隊長以下約2,500人玉砕 | 19. 1.11 | 米軍，クサイエ島初空襲 |
| | | | | 19. 1.30 | 米機動部隊，クェゼリン，ルオット，ウオッゼ，マロエラップ，ミレ，ヤルート空襲 |
| | | | | 19. 1.31 | 米軍，ブラウン環礁空襲（10－5） |
| | | | | 19. 2. 1 | 米軍，クェゼリン，ルオットに上陸 |
| | | | | 19. 2. 3 | ルオット島守備の，第24航空戦隊山田 |

		終	戦
	司令官以下約2,920人玉砕(1-4, 戦記-37) 大本営は2月6日玉砕と発表		
19. 2. 5	ケゼリン島守備の, 第6根拠地隊秋山司令官以下約6,000人玉砕(戦記-37) 大本営は2月6日玉砕と発表		
19. 2.17~18	米機動部隊, トラック島大空襲, 被害甚大, 前進根拠地の機能喪失		
19. 2.18	米機動部隊, ブラウン環礁砲爆撃		
19. 2.19	同各島に上陸		
19. 2.19~23	ブラウン環礁守備の, 海上機動第一旅団西田旅団長以下約3,560人玉砕(10-3, 50-9, 戦記-39) 陸海軍とも2月24日戦死と個別に通知		
19. 6.19~20	マリアナ沖海戦, 空母3隻(大鳳, 翔鶴, 飛鷹)喪失		
19. 7. 9	サイパン島守備部隊玉砕約4万3,300人, 他に邦人の犠牲者約1万人		
19.10.25	神風特別攻撃隊第一陣出撃		
19.11.24	マリアナ基地よりB29東京初空襲。以後終戦までB29の日本空襲は延べ1万7,500機, 投下した爆弾16万トン, 死者35万人, 負傷者42万人, 全焼家屋221万戸		
19.12. 7	東海地方に地震, 津波, 死者998人		
20. 1.13	東海地方に大地震, 死者1,961人		
20. 2. 4~11	米英ソの3首脳(ルーズベルト, チャーチル, スターリン)ヤルタ会談(ソ連に参戦の条件として日本領の南樺太, 千島を割譲すると密約)		
20. 2.16	米機動部隊, 関東地区空襲		
20. 3. 9~10	米B29, 東京江東地区大空襲, 焼失戸数約27万戸, 死者7万2,489人, 負傷者2~4万人, 罹災者約100万人		
20. 3.25	硫黄島守備隊栗林兵団長以下玉砕		
20. 3.26	米軍, 沖縄慶良間列島に上陸		
20. 4. 1	米軍, 沖縄本島に上陸		
20. 4. 7	海上特攻隊(戦艦大和, 軽巡1, 駆逐艦8)九州南西洋上で米艦載機延300機以上の攻撃をうけ主力全滅		
20. 5. 7	独軍, 連合軍に無条件降伏		
20. 6.23	沖縄守備隊18万8,136人玉砕, 内県民約11万1,000人		
20. 7.26	米, 英, 華の三国, ポツダム宣言発表		
20. 8. 6	米, 広島に人類初の原子爆弾投下 死者, 累計18万6,940人(平成6年8月現在)		
20. 8. 9	米, 長崎に2発目の原子爆弾投下 死者, 累計10万2,275人(平成6年8月現在) 全国の被爆者健康手帳所持者33万9,034人(平成4年現在)		
	ソ連軍, 満州, 北鮮, 樺太に侵攻開始		
20. 8.14	政府, ポツダム宣言受諾回答。終戦の詔書発布		
20. 8.15	終戦の詔書玉音放送		
20. 9. 1	ソ連軍, 千島列島占拠		
20. 9. 2	ミズリー艦上で降伏文書調印		
20. 9.27	天皇, マッカーサー元帥を御訪問。以後11回に亘り元帥を訪問し, 国民への食糧供給などを要請される		
20.10.24	国際連合成立		
20.11.20	靖國神社臨時大招魂祭に天皇行幸		
20.12.15	GHQ, 国家と神道の分離を指令		
21. 1.15	NHK「復員だより」放送開始22年2月11日まで		
21. 2. 1	GHQ指令により軍人軍属とその遺族に対する恩給, 扶助料など廃止, 制限		
21. 2.19	天皇被災地を視察し国民を激励するため神奈川県下へ行幸(以後9年間にわたり全国各地を巡幸される)		
21. 4.10	第22回総選挙, 初の婦人議員誕生		
21. 5. 3	極東国際軍事裁判開廷		
21. 7. 1	NHK「尋ね人」放送開始(37. 3.31まで)		
	米, ビキニ環礁で原爆実験以後10年間		

	に原爆21回、水爆2回	25.11.3 「君が代」復活	ギルバート地域は現地政府の了承が得られず、クエゼリンの北西遥か700哩（東京から奄美大島までの距離）の遠くで洋上慰霊祭を行った（3-2）
22.5.3	日本国憲法施行	26.4.11 マッカーサー元帥解任、4月16日帰米	28.3.11 日本遺族厚生連盟を改組し財団法人日本遺族会を設立
22.7.19	南洋諸島、米国の信託統治領となる	26.4.24 横浜桜木町駅で電車炎上、死者106人	28.7.1 保安庁を廃止し防衛庁発足
22.11.17	日本遺族厚生連盟結成	26.9.8 連合国との平和条約及び日米安全保障条約調印（サンフランシスコ）	28.7.27 朝鮮戦争休戦協定調印（板門店）
23.1.1	二重橋開放、一般参賀許可、28年以降1月2日となる	27.4.9 日航もく星号三原山に墜落乗客乗員37人全員死亡	28.8.1 軍人、軍属に対する恩給復活
23.4.4	GHQ、祝祭日に国旗掲揚許可	27.4.10 NHK連続放送劇「君の名は」放送開始、29年4月まで97回	28.8.7 「戦傷病者戦没者遺族等援護法の一部を改正する法律」により、法務関係（いわゆる戦犯者）が、一般の戦没者と同様の扱いをうけることになった
23.4.15	米、ブラウン環礁で核実験、以後10年間に原爆40回、水爆3回	27.4.18 靖國神社の例大祭復活	28.12.31 NHK紅白歌合戦始まる
23.6.28	福井大地震、死者3,769人	27.4.28 連合国との平和条約発効（7年ぶりに独立回復）、日米安全保障条約発効	29.3.1 ビキニ環礁での水爆実験により、漁船第5福竜丸被災
23.11.12	極東国際軍事裁判判決	27.4.30 戦傷病者戦没者遺族等援護法公布	29.6.9 自衛隊法公布、保安隊を自衛隊と改組
23.12.23	東條大将以下七士巣鴨拘置所において殉難死	27.5.1 全日本無名戦没者合葬墓建設会設立 総裁吉田茂（内閣総理大臣）会長村上義一（運輸大臣、後、本会会長）後日、戦没者の墓は国が建設することになり、手持資金は国に寄付し、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の植樹等に活用された	29.9.26 青函連絡船洞爺丸遭難、死者行方不明1,172人
24.1.1	GHQ、国旗掲揚の制限解除	27.5.1 皇居外苑でメーデー乱闘事件	31.10.19 日ソ共同宣言（平和条約締結後、齒舞、色丹を返還）（モスクワ）
24.1.26	法隆寺金堂炎上	27.5.2 全国戦没者追悼式が天皇・皇后両陛下御臨席のもと新宿御苑で催された	31.12.19 国連総会、日本加盟を承認
24.4.23	1ドル360円の為替レート発表	27.10.15 警察予備隊を改組し保安隊として発足	33.9.27 静岡県狩野川台風、死者874人
24.8.16	古橋広之進、全米水上選手権大会1,500m、800m、400m自由型に世界新記録	28.1.31 厚生省は、太平洋南方8島戦没者の遺骨収集団を派遣した。マーシャル及び	34.1.1 メートル法実施
24.11.3	湯川秀樹博士中間子論でノーベル物理学賞受賞		34.3.28 千鳥ヶ淵戦没者墓苑竣工式並びに追悼
25.1.1	年齢のとなえ方が満年齢となる		
25.6.25	朝鮮戦争始まる		
25.7.2	金閣寺炎上		
25.8.10	米軍の朝鮮出動による空白を埋めるためGHQ指示により警察予備隊発足		

- 式。天皇，皇后両陛下御参拝
34. 4.10 皇太子明仁親王御成婚式
34. 9.26 伊勢湾台風，気象庁開設以来の大型台風，死者行方不明約5,200人
35. 2.23 皇太子明仁親王の第一皇子浩宮徳仁親王御誕生
35. 5.20 日米新安保条約強行採決
37. 5. 3 常磐線三河島駅で列車二重衝突事故，死者160人
37. 8.12 堀江謙一青年（23歳）小型ヨットで太平洋横断成功

遺族会の設立

38. 2. 6 靖國神社永代神楽祭の後クェゼリン島遺族の懇談会。林茂清氏から遺族会の結成が提唱され全員が同意し，設立準備作業を開始した。戦没者とその遺族の調査，原簿作成は専ら浮田信家氏が奉仕した。本部を日本橋小舟町泉商事（株）内におく（10-3）
38. 6.29 設立の準備整い，丸の内の日本倶楽部で発起人会を開催。全員の同意で創立総会に切替えてクェゼリン島戦没者遺族会を設立し，初代会長に林茂清氏が就任（4-10）

38. 8.15 政府主催第1回全国戦没者追悼式が天皇，皇后両陛下御臨席のもと，日比谷公会堂で挙行された（以後恒例となり毎年継続。場所は39年は靖國神社，40年以降は日本武道館）
- 38.11. 9 三井，三池三川鉱でガス爆発，死者458人，重軽傷者555人
- 国鉄鶴見駅で二重衝突事故，死者161人
- 38.11.22 ケネディ大統領暗殺される

20年祭 斎行

39. 2. 6 靖國神社に於て20年祭を斎行（第1回慰霊祭），参加者800人，終って希望者250人皇居拝観（1-2）
39. 4.25 第1回戦没者叙勲発令
39. 6.16 新潟地方大地震，石油タンク15日間炎上，死者25人，負傷者422人
- 39.10.10 第18回オリンピック東京大会開催，参加94ヶ国，10月24日閉会
- 39.12.25 戦没者の郵便貯金が遺族に返される（1-11）

「環礁」創刊

40. 1. 1 会報「環礁」創刊
40. 1.11 伊豆大島大火，340戸全焼

40. 2. 6 第2回慰霊祭，第1回総会。ルオット島，ブラウン島の遺族の加入により，会名をクェゼリン方面戦没者遺族会と改称（2-8）
40. 7.13 靖國神社みたま祭に大型献灯以後毎年継続（2-1・4）
40. 8. 3 長野県松代町付近で群発地震，以後4年間に有感地震約6万3,000回

霊砂帰還

- 40.10. 9 海上自衛隊の護衛艦「あまつかぜ」で，クェゼリン島，ルオット島及びウオッゼ島の霊砂が帰還。記念艦三笠で厚生省に引渡された後，本会が受領し会員にお届けした（3-2）
41. 2. 6 第3回慰霊祭，第2回総会。古賀副会長退任，村上義一氏副会長に就任（4-11）
41. 5.25 ウオッゼ島等及びギルバート諸島の遺族の加入により会名をマーシャル方面遺族会と改称。現地に慰霊碑を建立することを計画（4-12）
42. 2. 6 第4回慰霊祭，第3回総会（5-2）
42. 3.24 クェゼリン島に慰霊碑建立が承認される（6-5）

現地調査・収骨・慰霊

42. 4. 22 浮田常任幹事と佐竹幹事は現地事情調査、収骨、慰霊（第1回現地慰霊）の為横浜出港（6-1・4・6）
42. 9. 26 林会長が靖國神社御創立100年奉祝奉賛会理事に委嘱される（7-3）
42. 10. 19 浮田、佐竹両派遣員大任を果して帰国（7-2~4）
42. 11. 19 品川区浅間台小学校で現地事情報告会（7-4・12）
43. 2. 6 第5回慰霊祭、第4回総会。今年から会費を集めることとし、年額を500円とする。本部を世田谷区野沢3-11-3に移転（8-8・16）
43. 5. 16 北海道、東北地方に大地震（十勝沖地震）、死者25人、全半壊家屋3,670戸
43. 5. 25~26 京都市で慰霊祭及び現地事情報告会（8-10）

クェゼリンに慰霊碑建立

43. 6. 9 慰霊碑の製作開始（8-12）
43. 6. 26 小笠原諸島23年ぶりに復帰
43. 7. 1 郵便番号制発足
43. 8. 17 慰霊碑完成、白金迎賓館で清祓式挙

（9-1・7）

43. 9. 13 慰霊碑横浜出港
43. 9. 15 加藤副会長逝去、81歳（9-7）
43. 10. 29 慰霊碑クェゼリン島着、建立作業開始
43. 11. 19 上記建立作業完了（9-7、10-12）
43. 12. 1 慰霊碑の除幕式が現地の有志により厳粛に挙行された（10-12）
44. 1. 15 東大紛争、全共闘派学生が43年3月から安田講堂を占拠していたが、機動隊8,500人を導入し、1月18日排除
44. 2. 6 第6回慰霊祭、第5回総会。林会長退任、村上副会長会長に就任（10-12）
44. 3. 1 浮田常任幹事副会長に就任（10-10）
44. 4. 28 林前会長逝去、88歳（10-3）
44. 7. 20 米国のアポロ11号人類初の月面着陸に成功、7月25日帰還
45. 2. 6 第7回慰霊祭、第6回総会。希望者による第1回直会旅行・修善寺方面50人（12-12）
45. 3. 14 大阪、万国博覧会開会、9月13日閉会
45. 3. 31 日航機「よど号」を赤軍派学生がハイジャックし北鮮へ
45. 7. 1 「環礁」合併本第1集完成（12-16）
46. 2. 6 第8回慰霊祭、第7回総会。第2回直会旅行・三浦半島方面70人（14-11）

46. 6. 17 沖縄返還協定調印
46. 7. 3 東亜国内航空「ばんだい号」函館北方に墜落、乗客、乗員全員68人死亡
46. 7. 30 岩手県雫石上空で全日空機と自衛隊機衝突、全日空機は空中分解し乗客、乗員162人全員死亡
46. 8. 9 石橋顧問夫人梅子様逝去、82歳（15-4）
46. 9. 1 古賀織之助氏顧問に就任
46. 9. 28 厚生省義村事務官外1名ギルバート諸島遺骨収集に出発、10月26日帰国（15-9）
46. 10. 30 厚生省千葉事務官外1名マーシャル方面遺骨収集に出発、12月1日帰国（16-4）
47. 2. 6 第9回慰霊祭、第8回総会。第3回直会旅行・房総鴨川方面55人（16-9）
47. 2. 28 群馬県警は軽井沢浅間山荘に籠城していた連合赤軍5名を逮捕。一味は総括という名目で仲間14人（内女5人）を殺害していた
47. 5. 15 沖縄返還される、沖縄県復活
48. 2. 6 第10回慰霊祭、第9回総会。第4回直会旅行・伊東方面54人（18-5・8）
48. 4. 25 石橋顧問逝去、88歳（18-2）
48. 9. 20 役員会で会旗とバッヂの作成を決定

(20-14・16)

- 48.10.6 第4次中東戦争, オイルショック
- 48.10.11 厚生省の中部太平洋遺骨収集派遣団出発, 本会より浮田副会長参加, 12月14日帰国 (20-1~3)
- 48.11.29 熊本市大洋デパート出火, 死者102人
- 49.1.20 村上会長逝去, 88歳 (21-3)

30年祭齋行

- 49.2.6 30年祭齋行, 第10回総会。靖國神社にクェゼリン島慰霊碑の副碑を奉納, 宝物遺品館に安置された (21-12)
浮田副会長会長に就任。佐藤常任幹事副会長に就任。会費の年額を1,000円と改訂 (21-3), 第5回直会旅行・箱根湯本方面65人 (21-12)
- 49.5.9 伊豆半島沖地震, 死者30人, 家屋倒壊約820戸
- 50.1.1 「環礁」に戦記シリーズ掲載を始める
- 50.2.6 第12回慰霊祭, 第11回総会。第6回直会旅行・川治日光方面55人 (23-6)
- 50.4.5 蒋介石総統逝去, 87歳
- 50.4.30 ベトナム戦争終結
- 50.7.20 沖縄海洋博開会, 51年1月18日閉会
- 50.8.4 日本赤軍ゲリラ5人クアラ・ルンブー

ルの米・スエーデンの両大使館占拠, 過激派7人の釈放を要求。日本政府は超法規的措置で釈放を決定

- 50.8.10 第2回現地慰霊団36人出発。ハワイ, マジュロ, クェゼリン, マロエラップ, 8月16日帰国 (24-1~19)
- 51.1.31 日本に初めて五ツ子誕生
- 51.2.6 第13回慰霊祭, 第12回総会。第7回直会旅行・下田方面96人 (25-1・7)
- 51.6.22 「英霊にこたえる会」結成。会長は元最高裁長官石田和外氏
- 51.9.6 ソ連ミグ戦闘機函館に強行着陸
- 51.11.10 天皇御在位50年記念式典挙行
- 52.2.6 第14回慰霊祭, 第13回総会。会費を年額2,000円と改訂。第8回直会旅行・甲府石和方面74人 (27-7)
- 52.3.1 古賀顧問逝去, 90歳 (27-3)
- 52.8.7 北海道有珠山32年ぶりに噴火, 洞爺湖温泉の住民全員避難
- 52.8.9 第3回現地慰霊団25人出発。 Guam, ナウル, タラワ 8月21日帰国, タラワ 21人, ナウル4人 (28-1~13)
- 52.9.3 王選手756ホームー
- 53.2.6 第15回慰霊祭, 第14回総会。第9回直会旅行・霞ヶ浦筑波方面53人 (29-4)

- 53.5.20 成田市に新東京国際空港開港
- 53.6.12 宮城県沖地震, 死者28人, 家屋倒壊651戸
- 53.8.12 日中平和友好条約調印 (北京)
- 53.8.28 第4回現地慰霊団35人出発。サイパン, マジュロ, クェゼリン, 9月2日帰国 (30-1)
- 53.11.12 厚生省主催慰霊巡拝団39人出発。マーシャル班21人, ギルバート班18人, 11月22日帰着 (30-13)
- 53.11.17 浮田会長, 日本遺族会相談役に就任
- 54.2.6 第16回慰霊祭, 第15回総会。第10回直会旅行・伊東, 中伊豆方面80人 (31-1)
- 54.3.8 政府派遣ブラウン環礁 (エニウエトック環礁) 調査団出発, 本会より浮田会長他7人参加, 3月20日帰国 (31-4)
- 54.7.12 キリバス共和国独立
- 54.8.12 マジュロ島より山村カナメ様1行14人 来日約1ヶ月にわたり知人訪問, 観光, 見学など (32-2)
- 54.11.26 マーシャル諸島に高波。12月3日にも (33-8)
- 55.2.6 第17回慰霊祭, 第16回総会。第11回直会旅行・館山寺方面 (33-1)
- 55.7.31 第5回現地慰霊団8人出発。サイパン 経由クェゼリン (クェゼリンロッジ宿

- 泊) 8月3日帰国(34-2~7)
56. 2. 6 第18回慰霊祭, 第17回総会。橋口常任幹事副会長に就任。第12回直会旅行・三保, 清水方面70人(35-2)
56. 4. 12 朝香鳩彦名誉会長逝去, 93歳(35-4)
56. 8. 21 第6回現地慰霊団マーシャル班15人出発。8月28日帰国(36-2)
56. 8. 25 第7回現地慰霊団ギルバート班6人出発。8月26日ナウル班1人合流, 9月4日帰国(36-2)
56. 10. 4 ギルバート関係会員はタラワに慰霊碑建立を計画, 本会は特例として之に協力することとした(36-16)
56. 10. 16 北炭夕張炭鉱ガス惨事発生, 死者93人
56. 10. 18 海上機動第一旅団第3大隊(駆3133部隊・元関東軍独立守備隊第16大隊)関係者は, 愛知県三ヶ根山上に慰霊碑を建立(58-13)
57. 1. 10 三ツ木幹事副会長に就任(37-4)
57. 2. 6 第19回慰霊祭, 第18回総会。第13回直会旅行・伊香保方面84人(37-4)
57. 4. 13 政府は8月15日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と定める

ギルバートに慰霊碑建立

57. 7. 25 ギルバート諸島戦没者慰霊碑(南瀛之碑)が完成, 靖國神社で本会に引渡され, 清祓式を挙(38-8)
57. 9. 28 厚生省主催マーシャル諸島慰霊巡拝団15人出発。ヤルート, ミレ, マロエラップ, ウオッゼ, ケゼリン, 10月8日帰国(38-7)
57. 11. 21 第8回現地慰霊団ギルバート班35人出発。22日タラワ着(38-1)
57. 11. 23 同上ベシオ島慰霊公園で慰霊碑の除幕式及び慰霊祭を執行。御協力を頂いた来賓と共に直会を行う。11月27日帰国(38-2)
58. 2. 6 第20回慰霊祭, 第19回総会。政府に対し, マーシャル諸島, ギルバート諸島, ナウル, オーシャン及びその隣接海域での戦没者慰霊施設を設置するよう要請することを決議(39-2)
- 第14回直会旅行・南房州方面69人(39-2)
58. 5. 26 日本海中部地震, 津波などにより死者104人
58. 9. 9 政府による「東太平洋戦没者の碑」建

設始まる

58. 10. 3 三宅島雄山大噴火, 410戸焼失

40年祭斎行

59. 2. 6 40年祭斎行, 第20回総会。会則の1部を改正し, 毎年の慰霊祭を「2月6日」から「2月第2日曜日」と変更
- 第15回直会旅行・熱海, 伊豆山方面65人(41-10)
59. 3. 14 厚生省主催マーシャル, ギルバート諸島慰霊巡拝団出発43人, マーシャル班26人, ギルバート班17人(41-2)
59. 3. 16 政府がマジュロ島に建立した「東太平洋戦没者の碑」が竣工, 除幕式を挙(41-10)
59. 3. 18 本会がタラワに建立していたマリア観音像が竣工し, 除幕式を挙(41-2)
59. 4. 23 海上機動第一旅団第1大隊(駆3131部隊・元関東軍独立守備隊第11大隊)の関係者は愛知県三ヶ根山上に慰霊碑を建立(58-13)
59. 11. 10 本会運営規程制定(42-9)
60. 1. 1 戦記シリーズ完結(42-10)
60. 2. 10 第22回慰霊祭, 第21回総会。佐藤副会

- 長会長に就任。井上常任幹事副会長に就任。浮田前会長を名誉会長に、栗林徳五郎氏を顧問に委嘱。第16回直会旅行・箱根方面
本部事務所を中央区日本橋人形町1-8-2に移転(43-1~3)
60. 3. 5 日本遺族会主催マーシャル, ギルバート諸島慰霊巡拝団23人出発。クェゼリン・ブラウン12人, タラワ4人, ウォッゼ7人。3月20日帰国(43-5)
60. 8.12 日航ボーイング747型機, 群馬県御巢鷹山中に墜落, 乗客, 乗員死者520人
60. 8.15 中曽根首相外, 靖國神社公式参拝(以後平成6年まで首相の靖國神社参拝はない)
- 60.12.23 秋山監事逝去, 63歳(45-17)
61. 2. 8 役員・篤志会員, 靖國神社をめぐる座談会(45-5)
61. 2. 9 第23回慰霊祭, 第22回総会。会友制度導入。第17回直会旅行・箱根方面(45-1)
61. 2.11 伊豆熱川温泉「ホテル大東館」火災, 死者24人
61. 4.29 天皇の御在位60年と85歳の長寿を祝う式典が国技館で挙行された
61. 8.25 厚生省主催マーシャル, ギルバート諸島慰霊巡拝団29人出発。
本会第9回現地慰霊団22人出発。政府派遣団と統一行動。9月1日帰国(46-2)
- 61.10.21 マーシャル諸島共和国独立
- 61.11.15 伊豆大島三原山が12年ぶりに噴火, 21日には新火口ができ, 209年ぶりの大噴火となって22日全島民1万人が脱出, 12月22日全員が帰島
62. 2. 8 第24回慰霊祭, 第23回総会。佐竹幹事副会長に就任。第18回直会旅行・熱海伊豆山方面(47-1・6)
62. 9.22 天皇宮内庁病院に入院され, 腹部手術をうけられる。10月7日御退院
63. 2.14 第25回慰霊祭, 第24回総会。第19回直会旅行・甲府, 石和方面54人(49-1)
63. 2.26 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会に南方24島の霊砂を寄託し, 希望する遺族に配布を依頼(49-24)
63. 3.13 青函トンネル(津軽海峡線)開通。青函連絡船終航
63. 4.10 瀬戸大橋開通
63. 5. 2 49年2月靖國神社に奉納したクェゼリン島慰霊碑の副碑の台座及び現地の忠魂慰霊碑の写真一式を奉納(49-20)
63. 6. 1 山口県護國神社に自衛隊員合祀拒否訴訟で最高裁は国側勝訴の逆転判決
63. 7. 1 「25年のあゆみ・会員名簿」刊行(50-19)
- 平成
元. 1. 7 昭和天皇崩御, 宝算87歳。皇太子明仁親王践祚「平成」と改元
- 元. 1.23 厚生省主催マーシャル, ギルバート方面慰霊巡拝団40人出発。クェゼリン20人, マロエラップ・ウォッゼ11人, タラワ9人。1月30日帰国(51-4)
- 元. 2.12 第26回慰霊祭, 第25回総会。相談役朝香孚彦様(朝香宮孚彦王殿下)辞任され, 大給湛子様(朝香宮湛子女王)が就任された
第20回直会旅行・熱海, 伊豆方面(51-1・20)
- 元. 6.29 靖國神社に置時計奉納(52-15)
- 元. 8.23 第10回現地慰霊団クェゼリン, ルオット15人出発 ハワイ経由8月29日帰国(52-2)
- 元.10.28 沖縄平和祈念堂にマーシャル, ギルバート各島の霊石を奉納(52-8)
- 元.11. 9 「ベルリンの壁」実質撤廃
2. 1.14 浮田名誉会長逝去, 89歳(53-14)

2. 2.11 第27回慰霊祭, 第26回総会。定例の慰霊祭と総会の期日を「毎年3月または4月」と改める。第21回直会旅行・修善寺方面62人(53-1)
2. 4.28 ウオッセ島グループ戦没者慰霊祭(53-4)
2. 5.18 中国天安門広場に100万人の民主化要求デモ(天安門事件)
2. 6.14 靖國神社奉賛会創立十周年に際し, 同会会長より感謝状受領(54-2)
2. 6.20 靖國神社高燈籠修復完了(54-2)
2. 7. 1 図書「靖國神社」の購読推せん(53-20)
- 2.11.17 雲仙普賢岳が約200年ぶりに噴火活動
- 2.12. 2 日本人初の宇宙飛行士秋山豊寛氏ソ連の「ソユーズTM11号」で出発, 12月10日帰還
3. 4. 1 日本遺族会主催クェゼリン, マロエラップ, ウオッセ慰霊巡拝団13人出発。4月9日帰国(55-4)
3. 4. 7 第28回慰霊祭, 第27回総会。第22回直会旅行・犬吠埼, 香取, 鹿島方面53人
3. 4.28 第1回島別座談会。ブラウン(55-13)
3. 6. 3 雲仙普賢岳で大規模火砕流発生, 死者37人, 行方不明4人, 以後災害つづく
3. 8.15 会員名簿刊行, 会員会友に配布
- 3.12.25 ソ連邦消滅
4. 2.29 厚生省主催マーシャル方面慰霊巡拝団34人出発。ブラウン12人, クェゼリン・ルオット22人。3月8日帰国(57-4)
4. 3.29 第29回慰霊祭, 第28回総会。第23回直会旅行・三浦半島方面45人(57-1)
4. 3.31 松平靖國神社宮司退任(57-20)
4. 4. 1 大野靖國神社宮司就任(57-20)
4. 4.19 第2回島別座談会。クェゼリン(57-17)
4. 9.12 宇宙飛行士毛利衛氏ら7人搭乗のスペースシャトル「エンデバー」出発, 9月20日帰還
- 4.10.13 自衛隊のカンボジア派遣PKO本隊376人出発
5. 3.28 第30回慰霊祭, 第29回総会, 第24回直会旅行, 三ヶ根山方面35人, 関東軍独立守備隊第11大隊(海上機動第一旅団第1大隊)と第16大隊(海上機動第一旅団第3大隊)の碑及び殉国七士の墓に詣でる(59-1)
5. 4.18 第3回島別座談会。ルオット(59-10)
5. 5.13 ウオッセグループはウオッセに建設中のハイスクールに図書費の一部として1,000米ドルを寄贈(59-13)
5. 6. 9 皇太子浩宮徳仁親王御成婚式
5. 7.12 北海道南西沖地震津波, 死者行方不明者229人
- 5.11.30 厚生省主催慰霊巡拝団37人出発。クェゼリン・ロイナムル15人, マロエラップ・ウオッセ9人, タラワ13人。12月8日帰国(61-13)

50年祭齋行

6. 3.27 50年祭齋行, 参列者303人, 記念撮影の後, 九段会館において直会, 参加者167人。奉納芸能は, 錦正流一門の大正琴, 安藤民謡会の東北民謡で頗る盛会(61-1)
6. 4.17 第4回島別座談会。ウオッセ, マロエラップ(61-22)
6. 5. 5 元相談役朝香孚彦様急性腎不全のため御昇天される。御年81歳
6. 7. 7 元篤志会員村岡達志様逝去, 85歳
6. 7. 9 日本初の女性宇宙飛行士向井千秋さん(42歳)と米国人飛行士6人が搭乗したスペースシャトル「コロンビア」出発, 7月23日帰還
6. 8. 1 50年祭行事の一つとして第11回現地慰霊団70人出発。クェゼリン40人, ルオット9人, ブラウン15人, マロエラップ6人。8月8日帰国

マーシャル方面遺族会会則

昭和38年6月29日 制定 改正（昭和40/2/6 41/2/6 43/2/6 59/2/6 61/2/9 62/2/8 平成元/2/12 2/2/11）

第1条（名称）この会は、マーシャル方面遺族会とい
います。

第2条（事務所）この会の主たる事務所は東京都に置
き、必要に応じ、全国各地に支部を置きます。

第3条（構成）この会は、大東亜戦争中マーシャル諸
島およびギルバート諸島で戦歿した者の遺族を会員
として構成します。

2 前項に該当する者は第11条の会費を納入すること
により、この会則に定める会員の権利を行使するこ
とができます。

第4条（目的）この会は、前条に示す戦歿者の英霊を
お慰めすることを目的とします。

第5条（活動）この会は、次の活動を行います。

- 1 毎年3月又は4月に靖國神社において慰霊の祭典
を行います。
- 2 第3条に示す諸島に残された遺骨の収集につとめ
ます。
- 3 現地に建立した慰霊碑の維持管理をはかります。
- 4 会員の相互扶助及び親睦をはかります。
- 5 その他この会の目的達成に必要なこと。

第6条（機関）この会の機関は、次のとおりとします。

1. 総 会
2. 役 員 会

2 定期総会は、毎年3月又は4月に靖國神社で開催
します

3 会長が必要と認めたときは臨時総会を開催します。

4 役員会は、必要に応じ随時開催し、会務の企画、
運営実施にあたります。

5 各会議は会長が招集し、議事は出席者の過半数に
よって決めます。

第7条（役員の種別、職務）この会に次の役員をおき
ます。

1. 会 長 1 名
2. 副 会 長 若 干 名
3. 常 任 幹 事 3 名 以 内
4. 幹 事 若 干 名
5. 監 事 3 名 以 内

2 会長は、この会を代表し、会務を総理します。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、
その職務を代理します。

4 常任幹事と幹事は、会長の指示により会務を分掌
処理します。

5 監事は、この会の会計を監査します。

第8条（役員の選任及び任期）役員を選任は、次のと
おり行います。

1. 会長及び監事は、総会で会員の中から選任しま
す。
2. 副会長、常任幹事及び幹事は、会員の中から会
長が指名します。

2 役員任期は、2カ年を1期とし、再任できます。

第9条（名誉会長、顧問、相談役及び篤志会員）この
会に、役員会の決定により名誉会長、顧問、相談役
及び篤志会員をおくことができます。

第10条（会友）戦歿者の戦友等で本会の目的に賛同す
る者を、その希望により会友とすることができます。

第11条（会費）会員及び会友は会費年額2,000円を毎
年定期総会の日迄に、新入会員は入会の時その年度
分を納入して頂きます。

第12条（経理）この会の経費は、会費、寄付金及びそ
の他の収入により支弁します。

2 既納の会費、寄付金は、原則として返戻しません。

第13条（会計年度）この会の会計年度は、毎年1月1
日より12月31日までとします。

第14条（決算）この会の決算は監事の監査を経た後、
総会に報告され、その承認を得なければなりません。

第15条（諸記録）この会の会務及び会計は正確に記録
され、会員はいつでも閲覧することができます。

第16条（会則の改廃及び解散）この会則の改廃及び解
散は総会で定めます。

2 解散の際保有する資産は靖國神社に奉納します。
但し総会の決議により、一部をこの会の目的に副う
事業に寄付することができます。

付 則

この改正は平成2年2月11日から施行します。

編集後記

戦争終結から幾星霜。明治・大正生まれにとっては若き日の思い出の数々が、昭和生まれにとっては、身近な肉親への思慕の憶いが蘇ります。戦争は過酷な結果を残しました。

この間私たちは遺族として互いに手を取り、励ましあって幾多の苦難を乗り越え、マーシャル方面遺族会は風雪に耐えて活動を続けて今日に至りました。散華された英霊の鎮魂に祈りを込め、その歩みを刻んだ「環礁」は全六十余号を数えるに至っております。お便りがあり、資料、写真が寄せられ、その行間には、全国会員の溢れる思いが伝わるものでした。

このたびの五十年祭を一つの節目とし、これを機に記念事業の一環として記念誌を刊行することは、本会の目的にかなう意義深いものであります。

昨年6月以来、構想を練り資料を蒐集し、本年9月に編集委員が委嘱され、鋭意編集を進めてまいりました。南十字星を仰いで眠れる英霊をお慰めしたいと願う全国会員の意を胸にしての作業でした。

編集がまとまった段階で、現地の部隊に勤務された方々からも貴重な資料を頂きました。ありがとうございました。紙面の制約もありますので、必要な資料につきましては、今後の「環礁」誌上に報告、あるいは御寄稿をお願いいたします。

本記念誌刊行に当たり、題字「南十字星」の御揮毫を大給湛子^{おぎゆうきよこ}相談役（明治天皇御令孫）より、また、松平永芳篤志会員（前靖國神社宮司）より御寄稿を頂きましたことはまことにありがたい幸せでございました。

さらに、関係諸官庁、各種団体の他、次の方々から貴重な資料、写真、御教示を頂きました。心より篤くお礼申し上げます。

秋元輝夫	栗林徳五郎	小菅輝雄
島田興生	下里梅子	篠崎英夫
田賀將一	土屋太郎	永尾直孝
長谷川敏	牟田 清	山下 治
他多数の方々（敬称略）		

平成6年12月27日

編集委員	佐藤宗丕	高橋鎮夫
	長塚隆夫	晝間楽平
	山口正雄	

南 十 字 星

— 鎮魂50年記念誌 —

平成6年12月27日

発行者 マーシャル方面遺族会

会長 佐藤 宗丕

印刷所 クイック印刷株式会社

マーシャル方面遺族会

本 部 〒103

東京都中央区日本橋人形町

1-8-2 泉商事ビル内

電 話 03-3661-8760

F A X 03-3661-6241

振 替 00100-0-93487